１【児童：学校生活についてのアンケート】

このアンケートでは、児童の学校生活での意識や友達関係、基本的な生活習慣、学習への意欲・関心・態度、家庭での様子等について児童自身が自己評価を行いました。学校は、その結果を分析し、成果と課題を今後の指導にフィードバックするよう努めてまいります。

（1）集計結果

Aとても思う　　B思う　　Cあまり思わない　　D思わない

番号	学校生活をふりかえって	A＋B（%で表示）	
		R６	R７
１	学校は安心できる場所で、来るのが楽しい。	９５	９０
２	先生や友だちに元気よくあいさつができている。	８６	９０
３	忘れ物をしないように、持ち物の用意ができている。	８５	８４
４	身の回りの整理・整とんができている。	７８	７８
５	授業はわかりやすく、楽しい。	９１	８８
６	授業でわからないことがあるとき、先生に質問しやすい。	８５	８４
７	授業中、先生や友だちの話をきちんと聞いている。	９５	９３
８	授業で、自分の考えを発表したり友だちと話し合ったりしている。	８５	７６
９	授業中、姿勢正しく学習している。	７６	７２
１０	進んで読書をしている。	５７	７２
１１	しなければいけない仕事をきちんとしている。（そうじ・当番・係など）	９８	９８
１２	早ね・早おき・朝ごはんを実践し、健康な生活をおくっている。	８８	８３
１３	休み時間には外で遊ぶなど、自分から進んで運動をしている。	７６	８１
１４	安全に気をつけて登下校している。	９７	９５
１５	宿題を忘れずにしてきている。	９４	９１
１６	地震や火事のとき、不審な人があらわれたときなど、どう行動したらよいかがわかる。	９６	９５
１７	学校のきまりや約束を守って行動している。	９５	９６
１８	友だちをいじめたり、仲間はずしをしたりせず、だれとでもなかよくできている。	９８	９０
１９	友だちのまちがった考えや行動に対して、はっきりと自分の思いを伝えられている。	８４	７４
２０	相手をきずつけないように、言葉づかいに気をつけている。	９５	９１

※集計表右側の数値は、A「とても思う」B「思う」を回答した児童の割合の合計です。

○　全体的な傾向は、昨年度（令和６年度）と大きくは変わりませんが、多くの項目で肯定的な評価が少しずつ減っています。次の３項目ではポイントが向上しました。

2「先生や友だちに元気よくあいさつができている」90%（＋4）
10「進んで読書をしている」72%（＋15）
13「休み時間には外で遊ぶなど、自分から進んで運動している」81%（＋5）

○　９５％以上が「とても思う・思う」と回答した満足度が高い項目は、次の通りです。
11「しなければいけない仕事をきちんとしている」(98％)
14「安全に気をつけて登下校している」(95％)
16「地震や火事のとき、不審な人があらわれたときなど、どう行動したらよいかがわかる」(95％)
17「学校のきまりや約束を守って行動している」(96％)

●　次の項目は、昨年度より５ポイント以上減りました。
1「学校は安心できる場所で、来るのが楽しい」90％(－5)
12「早ね・早おき・朝ごはんを実践し、健康な生活を送っている」83％(－5)
18「友だちをいじめたり、仲間はずしをしたりせず、だれとでもなかよくできている」90％(－8)

●　改善が必要な満足度が低い項目だったのは、次の項目です。
8「授業中、自分の考えを発表したり友だちと話し合ったりしている」76％
9「授業中、姿勢正しく学習している」72％
19「友だちのまちがった考えや行動に対して、はっきりと自分の思いを伝えられている」74％

（２）結果からの考察

本年度の児童アンケートの結果から、昨年度よりポイントを落としてはいるものの、本校では安心して生活できる人間関係が形成され、規範意識も高く、落ち着いた学校生活が維持されていることが確認できた。ここからは、本校の学校教育目標「心豊かで、たくましい子どもの育成～自ら気づき、考え、実行できる子どもの育成～」の観点から分析する。

1.「心豊かな子ども」の育成について

人間関係や学校生活に関する項目では、「学校は安心できて来るのが楽しい」「友だちをいじめたり仲間はずしをしたりしない」「言葉づかいに気をつけている」等の肯定的回答が、昨年度より低くなってはいるが、いずれも90％を超え、多くの児童が安心感と所属感をもって学校生活を送っていることが確認できた。また、授業中に友だちや教師の話を聞く姿勢も高い割合で見られ、落ち着いた学習環境が形成されている。これらの結果から、本校では、思いやりや規範意識が児童の行動として定着し、望ましい人間関係が築かれていると考えられる。以上のことより、「心豊かな子ども」の育成については、日常の教育活動の積み重ねにより概ね達成できていると判断する。

2.「たくましい子ども」の育成について

生活面に関する項目では、「宿題をわすれずにしてくる」「掃除や係の仕事をきちんと行う」「安全に気をつけて登校する」等の項目で高い肯定的回答率が見られ、学校生活の中での役割を果たす力や基本的生活習慣が身についていることがうかがえる。一方で、「早寝早起き」「整理整頓」など、家庭生活も含めた自己管理に関する項目では、他項目と比較すると肯定的回答率はやや低く、継続的な生活習慣の確立には課題が見られる。以上のことから、本校児童は集団生活の中では安定して行動できる力を備えているが、自己管理の面では発達途上にあり、家庭と連携した取組の継続が必要であると考えられる。

3.「自ら気づき、考え、実行できる子ども」の育成について

学習に関する項目では、「授業が分かりやすく楽しい」「先生に質問しやすい」など、学習環境に対する満足度は高い結果となった。しかし、「進んで読書をする」「姿勢正しく学習する」「自分の考えを発表する・話し合う」等の主体的な学習態度に関する項目では、他の項目と比較して肯定的回答率が低く、児童が自分事として捉え、自ら学びを深めていく姿勢には課題が見られる。このことから、本校児童は、教師の指導や友だちとの関係の中では安定して学習に取り組むことができている一方、自ら問いをもち、判断し、行動する主体的な学びの段階には十分には到達していないと考えられる。外部からの指示ではなく、自分たちで状態を整える意識と力を養いたい。

4. 総合考察と今後の方針

本校児童は、素直で思いやりや規範意識が高いという素晴らしい資質をもっている。安心して生活できる集団が形成されており、「心豊かで、たくましい子ども」の育成は概ね達成されている。これは、日常の生活指導と学級経営の積み重ねによる成果であると考えられるが、学校教育目標の中核である「自立した学習者の育成」については、今後の重点課題であることが明かとなった。

したがって、次年度は、これまで培ってきた安心感と規範意識を基盤としながら、児童が自ら気づき、考え、実行する学びへの転換を図ることを学校経営の重点としたい。特に、話し合い活動、表現活動、読書活動等を充実させ、主体的な学びへとつながる授業改善を推進するとともに、家庭と連携した生活習慣の形成を図っていく。

具体的には、授業においては、説明中心の指導から、児童の思考や表現を重視した学習活動へ改善を進める。発問の工夫や話し合い活動、書く活動を充実させ、児童が自分の考えをもつ場面を意図的に設定する。また、読書活動の充実を図り、自ら学びに向かう態度の育成につなげていく。学級経営においては、教師が指示する活動だけでなく、児童が目標や活動内容を決定する場面を積極的に取り入れ、自己決定の経験を積み重ねることにより、自律的な生活態度の育成を図る。生活指導についても、管理的指導に偏ることなく、振り返り活動等を通して児童自身が行動を自ら調整する力を育てるよう改善を進める。

以上の取組により、安定した学校生活の維持を図りながら、「学校は安心できる場所で、来るのが楽しい」が100％になるよう安全で安心な学校づくりをさらに進めるとともに、児童の主体性を高め、「自ら考えを発信する勇気」と「自らを律する強さ」という彩りを加えていくことで、学校教育目標である「心豊かで、たくましい子ども」の育成を加速させていきたい。